

絹のふるさと京丹後推進プラン<概要>

1. プランの位置づけ

- ◇第2次京丹後市総合計画及び京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略に沿ってより具体的な方向性を示す
- ◇地域活性化モデルケース及び地域再生計画を実行する
- ◇京丹後市の「絹のふるさと」形成に向けたアクションプラン

2. 絹・シルクの現状

- (1)直面する課題 生産現場の高齢化、工賃の低下、設備の老朽化を要因とする賃機の廃業が相次ぎ、産地規模の維持が困難
- (2)拡大する機会 —シルクのまちづくりの取組—「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録され、国では「絹のみち広域連携プロジェクト」が発足。「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」に向けての全国的動きが出ている。すでに自治体ベースでも「シルクのまちづくり市区町村協議会」が発足。また経済産業省に「和装振興研究会」(2015年1月)が設置され、和装振興を地域振興、観光振興につなげる方策が議論され、純国産商品の認証「純国産絹マーク」(2008年3月)や「J∞QUALITY」(2015年1月)が始まっている。
- (3)活用すべき強み 丹後産地には、約300年間続けられてきた丹後ちりめんの生産によって培われた技術や文化がある。国内最大の絹織物産地であるため、国内絹織物産業のリーディング産地としての地位を確立している。
- (4)克服すべき弱点 機業が相互に協調し、連携して取り組む事業活動は未だ途上にある。

3. 目指すべき方向

～絹のふるさと京丹後から 新しい時代のシルクロードを世界に向けて～

(1)絹・シルクに関する産業と人材の集積地として

- ◇地場産業の再興に向けて新たな創造・展開を図り、次の世代に引き継ぐための環境を確保する。
- ◇生産地から加工、販売までを一気通貫し、その関連する産業技術及び人材の集積を図る。
- ◇絹・シルクを活用し、創造性あふれる新たな産業を創出する。
- ◇絹・シルク産業の安定的な産地経営を図り、地域の発展とともに次の世代へつなげる。

(2)絹・シルクへの愛着と誇りを育む地域として

- ◇絹・シルクは、日本の文化、地域の文化を伝える力を持つ。新たな絹・シルク産業と文化の創造・発信に取り組む。
- ◇和の文化、きもの文化を大切に守り育て、その用途を広げる。
- ◇わが国のシルクに関連する産業や歴史・文化を持つ都市と連携する。

(3)絹・シルクに関する情報発信地として

- ◇絹・シルク産業とシルク文化を掘り起し、発信して、絹のふるさとを創造する。

4. 具体的対応

(1)絹・シルクに関する産業と人材の集積化の取組み

①2020(平成32)年に向けて取組むこと

- A. 知のネットワークの構築・強化・活用 国内外の蚕及び絹の研究者ネットワークをはじめ、関係大学などとの学官連携体制を構築。
- B. 絹・シルク関連産業の集積・拡大及び環境整備 桑園の拡大と京丹後産繭周年生産の産業化推進、研究活動を推進し、その成果を創業及び企業集積につなげ、必要な規制の撤廃・緩和を国に対して求める。
- C. 絹・シルク関連産業人材の確保・育成 技術者の人材育成、起業もしくは市内事業者(予定者を含む)への就業をめざし取組む。
- D. 絹・シルク関連産地の形成 純国産、メイド・イン丹後の高クオリティな絹・シルク製品の生産地をめざす。また、洋装分野への展開と他産地の技術を継承する。
- E. 都市間連携の強化 国内外の都市間連携の強化や地域を超えた事業者連携による新ブランド・新商品の開発等シルク産業の活性化やシルク文化を活用した魅力ある地域づくりを推進する。
- F. 丹後織物工業組合の機能強化 絹精練工場の機能を確保し、産業観光面での充実を目指すとともに、産官学連携等により新たなビジネスへの展開を図るため、市との連携をさらに強化する。
- G. 2020年プロジェクトの構想と始動 新たな切り口でのきもの開発を支援する。また、「ブランドプロデューサー」を招聘し、丹後織物技術等を活用した新ブランドを設立し、海外展示会への出展及び海外拠点事務所の設置についての検討を行う。

②2024(平成36)年に向けて取組むこと

- H. ブランドの維持・強化と海外展開の推進、インバウンドの促進 外部専門家等を活用して海外展示会への出展、海外拠点事務所の設置などとともに、産地見学・ビジネスルートを整備・提供を行い、海外からの誘客を促進する。

(2)絹・シルクへの愛着と誇りを育むための取組み

①2020(平成32)年に向けて取組むこと

- I. 学校教育・社会教育の推進 桑栽培や養蚕体験、きもの等着方教育など、絹・シルク文化に触れる機会を学校及び家庭において提供できるよう取組むとともに教育者に対する人材育成を進める。
- J. 歴史の理解促進と先人の顕彰 丹後ちりめんの歴史、「あしぎぬ」に関する歴史講座等の開催。先人(絹屋佐平治)の知恵と努力を顕彰。現代に伝わる丹後ちりめんのさらなる理解促進に向け、ミュージアム設置の必要性を検討する。
- K. 和装振興を地域振興、観光振興へ きもの似合う場所の情報を発信。京丹後ちりめん祭を拡大・充実。

②2024(平成36)年に向けて取組むこと

- L. 丹後ちりめんへの敬愛の醸成 誰もが和文化に親しめる環境を維持する。

(3)絹・シルクの情報発信地化への取組み

①2020(平成32)年に向けて取組むこと

- M. 情報発信の推進 施設と産地体験等の連携による広域観光ルートを開発し、和装のユネスコ無形文化遺産登録をめざす。また、「絹のふるさと京丹後」のロゴマーク等を作成し、活用。外国人観光客をターゲットにするなど、国内外での、きもの姿、丹後ちりめんのPR活動を行う。

②2024(平成36)年に向けて取組むこと

- N. 絹のふるさと京丹後の認知拡大 「絹のふるさと京丹後」の存在を情報発信することによって内外に周知を図る。